

宇都宮市立宝木小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問への肯定割合が4.5ポイント、「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」という質問への肯定割合が6.2ポイント、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」という質問への肯定割合が9.5ポイント、それぞれ県の平均を上回っており、日々の学習に意欲をもって取り組んでいることが分かる。身近な話題を授業の課題に取り入れたり、学習の手立てを具体的に例示したりするなど、継続した指導・支援の結果、児童の学習に対する興味・関心・意欲が改善されてきた成果だと思われる。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」という質問に対する肯定割合は、県の平均を8.1ポイント上回っている。授業研究会を通して、児童の成長や努力を認め、そのよさを生かす言葉かけができるようになるなど、教師の指導力も向上してきているためと考えられる。今後も、授業研究会や各種研修会を通して、児童に寄り添った指導ができるよう実践力の向上を図っていききたい。

●「家で、学校の予習をしている」という質問への肯定割合が8.3ポイント、「家で、学校の復習をしている」という質問への肯定割合が7.9ポイント、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」という質問への肯定割合が9.3ポイント、それぞれ県平均を下回っている。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に対する肯定割合は、県平均を7.1ポイント下回っており、宿題など家庭学習の大切さは理解しているものの、何を、どのように学習したらよいかわからないなど、支援が必要なことも分かる。自主学習を推奨し、個に応じた家庭学習に取り組ませることで、自分から計画的に取り組む意欲を高める一方、学年だよりや学級通信、懇談会を活用し、児童のノートなど家庭学習の具体的な事例を紹介し、率先して自主学習に取り組めるように家庭との連携・協力を深めていきたい。

宇都宮市立宝木小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的な授業を目指した、一時間ごとの授業準備、評価時間の確保	・月1回の金曜日5時間授業の放課後を授業準備の時間として確実に確保するとともに、教師が授業づくりや学習準備に使える時間を作り出すことで、質の高い授業を実施していく。	「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」の設問に対しての肯定割合は、4年生は県より0.8ポイント低いものの83.4%で、5年生は89.1%で県より4.5ポイント高い。また、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」の設問に対しての肯定割合は、4年生が85.3%で県より4ポイント、5年生は91.1%で県より6.2ポイント高い。このことから、主体的に学習に取り組むことについて効果が表れてきていると言える。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問に対しての肯定割合は、4・5年生ともにわずかに県より上回っていることから、対話的な授業を目指した授業づくりの効果がみられるようになってきたと考えられる。
・家庭学習の習慣化・継続化への手立てや取り組み方の提示	・家庭学習の習慣化が図れるよう、家庭と連携した学習がんばり週間を年2回実施している。また、家庭学習の進め方を配付し、「わかる。できる・覚える」の3ステップでのやり方を明示し効果的に取り組めるようにしている。	4・5年生ともに「家で、学校の宿題をしている」の設問に対しては肯定割合が県より高いが、「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」の設問に対しての肯定割合は、県より低い。主体的に家庭学習することに課題が見られる。